

東海・北陸ブロック

1.プログラム詳細

【日程】

<1日目>

13:00~13:30	(30)	受付
13:30~13:45	(15)	開会 ・主催者挨拶：内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付 交通安全啓発担当参事官補佐 大橋 健晴 ・来賓挨拶：愛知県 県民文化部 次長 水野 直樹 ・講師、コーディネーター紹介
13:45~14:45	(60)	講演 「交通安全指導における効果的な話し方」 講師 （株）ビジネスファーム 代表取締役 藤原 徳子
14:45~14:55	(10)	休憩
14:55~15:55	(60)	活動実践発表&体験 ・愛知県の交通安全教育ボランティア「かけ橋」登録団体 Yu & Kei による交通安全パフォーマンス ・サンダーボルトによる交通安全VRの紹介・体験
15:55~16:05	(10)	休憩
16:05~17:00	(55)	グループ別交流（自己紹介及び役割分担検討）

<2日目>

8 : 30 ~ 9 : 00	(30)	受付
9 : 00 ~ 10 : 00	(60)	グループ別討議 子どもと高齢者に対する交通安全活動における課題と対応策 自転車利用者に対する交通安全活動における課題と対応策 通学時間帯における交通安全活動、啓発活動の課題と対応策
10 : 00 ~ 10 : 30	(30)	グループ別討議結果発表
10 : 30 ~ 10 : 40	(10)	休憩
10 : 40 ~ 10 : 50	(10)	講評 (コーディネーター 星 忠通先生)
10 : 50 ~ 11 : 50	(60)	講演 「高齢ドライバーの交通安全」 ~ 家庭・地域にもとめられるもの ~ 講師 安全教育研究所 所長 星 忠通
11 : 50 ~ 12 : 00	(10)	主催者からの連絡事項：内閣府
12 : 00		閉会

2. 講義等の記録

【1日目】

講演

「交通安全指導における効果的な話し方」

(株)ビジネスファーム 代表取締役 藤原 徳子

改めまして、皆様こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました藤原でございます。

早速、お話に入っていきますが、今回は「効果的な話し方」ということで、スライド（視覚）と口頭を使い分けながら、知識や情報をお伝えして、「さあ、行動変容するぞ、行動を変えるぞ」という気になってお帰りいただきたいと思います。

規範を守る道徳的な人間としてのお手本

どんなお手本かと言いますと、1)交通安全指導の「目的」は、「尊い命を守り、安心安全な街づくり」をすること 2)交通安全指導の「目標」は、「交通ルール、マナーを守る態度を育成する」そのための「知識、技術、技能を身に付けること」のためのお手本になっていただくということです。これが私たちの使命、皆様方の使命、社会全体の大人の使命だと思っています。ですから、皆様方含め全国民がこういう意識を持っていたら、本当に死亡者数や交通事故者数も減っていくことだと思うのです。私は日々、半分ぐらいメンタルヘルス研修をやっているのです。鬱病の方とか、時にはカウンセリングもしたりするのですけれども、鬱病で自殺する人というのは、昨年度の発表ではようやく3万人を切りました。ようやく切ったのです。

これも全国の組織がきちっと取り組みをやったからの成果だと思うのですけれども、きちっと病を理解すれば防止できるということもあります。今、日々、色々な心の病を抱えている人たちもいるかと思うので、私はボランティアの方、指導員の方々、推進委員の方々にこれだけをお願いしたいと思っていることがあるのです。

それは、学生さんであれば登下校時に、ひとり暮らしの人の場合は出会った時に、「きちんと寝ていますか」「きちんと朝ご飯食べていますか」という声掛けです。寝るということは凄く重要です。睡眠と食事と運動、このアンバランス、生活習慣の乱れが自殺を誘発するということもありますので、そういう言葉がけも交通安全同様に必要ではないかと思います。

先人は良いことを言いましたね。「寝る子は育つ」。これは脳が育つという意味なのです。だから、脳がきちっと育っていれば、ホルモン分泌が健全で、思考回路がきちんとできるわけです。ところが、脳内伝達物質が不調になると、病になったり、理性が崩壊したり、それで自殺を誘発するということがあるのですけれども、そういう意味では、交通安全のルールだけではなくて、「きちんとご飯食べている？」と、声をかけることも生活習慣を整えてあげることにつながります。ルールをきちっと守れる健全な若い人たちを増やしていくことだと思うのです。

今申し上げた話によって、皆様のお顔がクッと上を向いていただけましたが、これを「ラポール」と言います。フランス語ですけれども、大阪風に言うと、「つかみを入れる」と言いますが、聴取者の方々がこちらをクッと向いていただくことが、まずやるべきお仕事なのです。この先生のお話、聞きたくないわと思ったら、もうシャッターが降りていますから、

話の途中で目にもシャッターが降りてしまいます。今、ちょうど危険な時間帯(笑声)です。

そういう意味で、まずシャッターを上げさせる行為をとらなければいけないわけです。そのためには必ず「つかみ」を入れてください。何でもいいです。歌の好きな方だったら歌でもいいです。「私がつくった交通安全の歌」とか言って披露してもよろしいと思います。ただ、外した時は怖い(笑声)。それと、皆様が指導の現場で楽な気持ちになってもらうために申し上げるのですが、研修とは一体何かというと、私は気づきの種にしかならないと思っております。種を持って行くのです。しかし、待ち受けている土壌がどういいう土壌なのか。「お米は育つのか」「ソバの実はどうだろう」「桃は育つのか」という土壌という条件があって、幾ら良い種だと思って持って行っても、育たない土壌もあると思うのです。

これ無責任な話と思う方もいるかもしれませんが、講習に行った先の人たちの私生活まで介入できないのです。つまり、個々人が行動変容しようという気持ちになるかどうかです。あとは期待するしかないということです。

指導に行った学校の生徒さんが交通事故で亡くなったということで、悲しい思いをされたり、至らなかったかなと悔やまれたりしている指導員の方に過去会ったことがあります。ですから、そう思わなくて良いのですよというあたりから、私は気づきの種でしかないということをもまず認識していただきたいと思うのです。

効果的に話すための準備

資料の中に、笑顔の表があります。原稿を書きながら発見したのです。括弧とマイナスを書いていたら、あれ？ ひょっとしたら表情をつくれるんじゃない？と思い、括弧とマイナスを組み合わせた結果がこれです。

括弧とマイナスを使うと、目と口元の9つの表情を作れるのです。どれがいいかというと、やはり口角が上がっているほうがいいですね。時には、相手が真剣な話をしている時には、こちらも真顔で接しますから、口を一字にするということも必要なのです。一番下の口角が下がっているのは良くないですね。我々は重力の関係で上から下へと肉が下がります。口角は無意識でいると下がってしまいますので、常に意識して口角を持ち上げるような気持ちでいれば、常に笑顔で地域の方と接することができると思います。

話す時の心得

話す時の心得として、幼児と学童に対する心得では、まずは、幼児語を使わないことです。ルールを教える場合は、きちっと一人格者として、大人まではいかななくても1人の人間であるということを尊重して、丁寧な言葉で接してください。

ご存じのように、今、躰はユーチューブとかタブレットを与えておけばそれでいいやという感じで、ママ友たちは話に夢中で、子どもたちはアイパッドでユーチューブばかり見ている。私、全国を仕事で行きますけれども、気づいたことがあります。全国の保育園児ぐらいいまでの子どもたちが皆標準語なのです。これには驚きました。親は方言べたべただけけれども、子どもだけは標準語です。ある保育園で、5歳児クラスを見学していた時のことです。保育室から男の子が出てきたものですから、「大きくなったら何になりたいの？」と聞いたのです。何と言ったと思いますか。

会場 ユーチューブ……

藤原 ユーチューバーという。ところが、最近ユーチューバーは人気がなくなったのです。今は食えないということが分かったのか、子どもたちもユーチューバーと言わなくなった。たまたま私が聞いたその男の子は、「僕ね、大きくなったらスマホになるんだ。スマホ、スマートフォン(笑声)。「えっ？ スマホになるの？ どうしてスマホになりたいの？」と聞いたら、「だって、僕がスマホだったらさ、パパもママも朝から夜お布団に入ったって僕だ

けを見てくれるでしょう」と言いました。これを聞いて愕然としましたね。悲しくなった、余りにもこれは心が荒んじゃっている。

アメリカの大学の教授が、日本の小学校で調査をしているのですね。「親というものは、子どもよりタブレットのゲームとかスマホが大事だと思いますか」という問いかけに、日本の小学校では「はい」が50%を超えていたのですね。アメリカですら19%だったのに、日本は危ないという投稿でした。私もそう思います。

学生・高齢者に対する心がけとしては、命令形ではなく「何々していただけますか」という依頼形で常におっしゃるようにしていただければと思います。

また、「相手の言葉を正す必要はない」ということです。昔から「挨拶は山びこさん」と習ったと思うのですが、「おはよう」と言ったら「おはよう」。「おはよう」と言ったら「おう」ではないということです。やはり同じ言語で返してあげなければいけないということです。「挨拶」でそのお子さんの内面をチェックすることができるので、挨拶を必ずやっていたきたいのですが、挨拶しても返してくれない人は世の中にいっぱいいますね。そうすると、そういうことに慣れてしまうのですね。「あの人は返してくれない」に慣れてしまう。これははっきりと言っているのですけれども、挨拶して返せないということは、人間性の欠如を意味しています。人間性が磨かれていない証なのです。だから、挨拶は凄く重要なのです。なぜそうはっきり言うかということ、これは広辞苑に書かれているのですけれども、挨拶というのは、「挨」は心を開く、「拶」の字は迫るということなので、心を開いて自分のほうから迫っていくもの。実際、挨拶はそういうものです。ああ、そういうことかと思った瞬間、私からは先にやろうとか、きちんとやろうと思うようになりますけれども、昔出会った人に、挨拶を自分からしたら負けた感じがすると言った人がいて、ええっ？ みたいな。挨拶で勝ち負け言うか、ちっぽけだなとかと思いました。

次は、「親しみの勘違いをしない」。ご近所さんの人であっても講習中はメリハリをつける。「ああ、あの人同士親しいんだ」と思った瞬間、その方は、何か疎外感というものをお感じになってしまいますので、どんなに親しいご近所の方が講習会に来ていたとしても、ちゃんとメリハリをつけていただければと思います。

「相手の言葉を正す必要はない」。これ肝心なところです。相手が何か言葉を発したら、同じ言葉をオウム返ししてください。相手の言った言葉を言いかえないでください。例えば、とても方言のきついおじいちゃん、おばあちゃんがいたとして、その意味が分からないとなったとしても、聞いた範囲内でそっくり繰り返してあげてください。そして、分からない時は再度、「意味を教えてください」。こう聞くといいですよ。相手の言った言葉を否定しないことです。皆さん、実験してみましょ。食堂の中にいると仮定して、私、食堂のおばちゃんの役をやりますから、私に皆さんが一斉に、「おばちゃん、ご飯おかわり頂戴」と言ってください。

会場 おばちゃん、ご飯おかわり頂戴。

藤原 はい、ライスですねという世界（笑声）。わかります？ 言葉を正す必要はないというのは、同じ意味合いだとしても、言いかえないで。これはよくハウスメーカーでもあるのです。「このリビング、何畳間ですか」と聞いたら、「ちょうど20.何平米です」と。だから、同じ意味合いでも、言い方を変えると人は正されたと思うわけです。自分の言葉をまるで否定されたように。「今の時代は平米と言うのですよ」と、正されたみたいに思ってしまうので、必ず相手の言ったことをそっくりオウム返しするということがポイントです。

基本動作としての視点法

人数や会場の大きさによっても視点法の使い方は違います。

まず、3点法というのが一番簡単。まず左奥を見て、右中段を見る。そこを見たら、今度

は左前を見ます。逆バージョンもやるわけです。これだけで皆の方を見たようになるのです。少人数だったら3点法で十分だと思うのですが、本日のようにちょっと多くなりますと、5点法がいいです。5点法はこうやります。左奥から真ん中に来て、右前から左前に来て、右奥に行く。そうすると、皆の方を見ているように思いますよね。

大会場だったら、Z視点法を使う。Zを書くように見ていきます。横Zもあるし、縦Zもあります。手でZを描きながら視点をそれに合わせます。実際は手を動かしませんけど...

次に「語先後礼」を体験していただきましょう。例えば「おはようございます」という場合、視線は、おはようございますと言ってから下げる。本日はありがとうございましたと言ってから視線を下げる。言葉が先、「語先後礼」と言います。この視点法を使うだけでも大変凛とした所作になりますので、是非皆さんなさっていただければと思います。

続いて、話すというスキルですが、アルバート・メラビアン博士は「好意の総計」と言っております。視覚に訴えて目に入ってきたところが55%印象を決めて、残り45%は耳から入ってきたところで人の印象は決まるということです。

例えば、「今度の日曜日、藤原さんのベンツを貸していただけませんか。」と言われた時の私の答えは「いいけど。いいけど。」と言ったらどう思います？

会場 嫌だなって。

藤原 嫌ですよ。メラビアンは、その人の言った言語、言語は「いい」と言っていますよ。しかし、言語と非言語が不一致の時、人はどこを信じるのかの割合なのです。だから、93%の非言語を信じるよと。口ではイエスマイミ、いいよと。こういう人、世間にいっぱいいません？（笑声）。だから、人が自分の思いを的確に伝えるためには、言語と非言語を一致させておかなければいけないわけです。

日頃は交通ルール云々と言っていて、ショッピングセンターに行ったらルールを無視している、車が駐車する白線がはみ出ている、2カ所にまたがっているとかというのを見られた瞬間、講習を受けた人たちはどう思うでしょう。皆さんに裏切られた感じがする。言行不一致だと思います。

次に、お口の体操です。「あ」は思い切り「あ」、「い」は、子どもがやるように「いー」と引っ張ってください。そして、「う」は唇を突き出す。「うー」のまま「えー」、ピンポン玉が1個入っているような感じで、「おー」となります。

これを3回やって終わってください。かなり楽になりましたか。これをやってから講習に臨んでいただければなと思います。

それから、「濁音」と「鼻濁音」の使い分けを意識してください。

「聞きたい話」。やはり人が聞きたくなる話というのは、自分に関係のあること。自分の利益になること。本来はこの「利益」ということを書きたくなかったけれども、授業風景を見せてもらうことがあるのですが、最近の先生方って、何でああいう指導をするのだろうかという疑問を感じることがあります。それは何か。「何々すれば得だよ」と教える。「そんなことしていたら損するよ」と。ああ、現場では損得教育をしていると思ってしまいました。

昔は、善悪教育をしてくれたのです。交通ルールは、本来はそういう損得の話ではないわけです。ルールだから、イエス・ノーがはっきりしている、丸バツが決まっていることを語る時は堅苦しいですね。ですから柔らかく表現したり、音調表現とか仕草も柔らかくしたりしていただければと思うのです。

講習会に行った時に、「皆さん、本日の講習会では2つのことができるようになってもらいます」と先に言ってしまえばいいのですね。「2つだけでいいんだ」となると聞く耳を持つ。「皆さん、こんにち。本日は10覚えてもらいますよ」と言ったら、もういい、この会場を出ていきたい、10もやるわけ？ となるわけです。人が聞く耳を持つのは3つまで。余り欲張らずに3つに絞って指導するというのも良いと思います。

講義の組み立て

講義の組み立てというのは色々な組み立てがあると思うのですが、一番やりやすい方法を覚えてください。一番やりやすい方法として、「なぜ大切なのか」「なぜそうなるのか」「では、どうするのか」というような組み立てです。「自転車の走行ルールを守ることがなぜ大切か。それは」と言って「本来人が通行する歩道で自転車が行き交うと、自転車同士や人と自転車が接触する事故が起こる可能性があります。最近では死亡事故も発生しています」と。では、どうするのか？ となると、「自転車はそもそも車両です。日本では車両は左側通行ですから、車と同じ方向で自転車は道路の路肩に近いところを走行しましょう」と。

だから、ルールって何なのでしょう。私、このルールほど簡単なものはないと思うのです。なぜ簡単かということ、結果は丸かバツかしかないから。守るか守らないかです。この間、赤信号を無視していた人が役所の庁舎に入っていくのが見えて、私の研修を受講した人だから声をかけようと思ったのです。その役所の人をつかまえて、「なぜ守らないのですか」と言ったら、「いや、ちょっと焦っていて。ちょっと寝坊した」と言ったから、「10分でも早く起きて来れば?」「そんな簡単に言うけれどもね、あなた」と。こういう感じ。やはり個々人の倫理観なのだと思ひまして、凄く残念でしたよね。

次、コメントをする時には、子どもたちもそうですけれども、ご年配の方々もそうですが、何かを言った時に、「ありがとうございます。ご意見いただいてありがとうございます」と、必ず礼節として、何か発言した人にそのように礼を尽くしていただければと思います。余り褒め過ぎないように満遍なくやっていただければと思います。

では、思考を整理する。今日は何の指導だとか、横断歩道がない道路を渡る時、あるいは踏切を渡る時とか、テーマを設定して、それに1つ自分の意見をまとめておかれると良いと思うのです。

これはニューヨークに本社があるマッキンゼーという会社のコンサルティング会社のカーター・ベイルという方が発案したロジックツリーと言ひまして、自分の考えを整理するもの。全部これ三段論法になっていると思ひませんか。スピーチする時は3分以内。この「3」というのが凄くキーワードですね。忘れないでいただければと思います。テキストにも書いていますが、テキストには、からまで、枠の中にナンバーがついています。この順番に読んでいくと整理された論理的なものになります。それに合わせてやっていきたいと思ひますので、聞いてください。

「私がお勧めする観光地は函館です。なぜ函館かということ、3つの理由です。1つは観光名所。2つ目は朝市、3つ目は西洋建築の建物です。そうしたら、前に戻ってきまして、「まず」「次に」「最後に」という言葉を使ひます。「まず、観光名所ですが、行っていただきたいところが3カ所あります。1つは函館山、2つ目は五稜郭、3つ目は四角い電柱です」。

最後の私見というのは、具体化している3つのことに1つずつ解説するのではなくて、属性といって、ここの1つのところがありますね。これに対する総括として述べてください。話が長い人というのは、ここに1つ1つに解釈を入れる。それで話が長いのです。ですから、このルールを守っていただければと思います。

「世界三大夜景の1つである函館山から市街地を眺める夜景の素晴らしさをぜひ体験してもらいたいです。『次に』、朝市ですが」と、こうなるわけです。「3つ食べてもらいたいのがあります。1つはイカ刺し、2つ目、毛ガニ、3つ目が海鮮丼です。朝早く起きて活気あふれる朝市で、函館名物のイカ刺しを初め、海産物を思う存分堪能してもらいたいです。

『最後に』、西洋建築の建物ですが、訪れていただきたいところが3カ所あります。1つは元町の教会群、2つ目が修道院、3つ目は旧函館区公会堂です。鎖国を終えた日本の玄関口となった函館。異国情緒あふれた建物が並ぶ町をゆっくり散策してもらいたいです」。

そして、最後です。「よって」と言ひて戻ります。「よって、函館を私は観光地としてお勧め

めします」と、このように戻るわけです。最初と最後に主題を述べると聞き漏らした人にも記憶に残るのです。だから、最初と最後、両方言えるようにしておいていただけたらと思います。私がお勧めする話し方というのは、実はこのロジックツリーで1テーマ、自分で常に研さんを積んでおいていただきたいなと思います。

今日は1時間の時間の中で実践は難しかったのですが、常に対象者を考えていただいて、保育園児なのか、小学生なのかでネタも違ってきますよね。幼児が対象の場合だと、アンパンマンの情報だとか、トーマスは人気が根強いです。そういう切り口の違うところの情報も得ていけないとうまくできないかもしれないですね。

終わりに一言申し上げるなら、ネタがなければまず話せない。それと、場数を踏まなければ上手くはならない。突き放した言い方に聞こえるかもしれませんが、場数を踏まないスキルアップはない。ちょっとしたコツは全部テキストに書いていますので、それを表現してみただければなど。これを実践していただければよろしいかと思えます。

すみません、ロジックツリーばかりが話し方のポイントではなくて、自分の言いたいことを常に30文字でまとめる力、これもつけておかれると効果的な話ができます。だから、1つのスキルだけではなくて色々なスキルがあるのだということで、皆さんのやりやすいものをお選びいただいて、講習の現場で生かしていただければと思います。

本日は大変駆け足で進めましたけれども、以上で終わらせていただきたいと思えます。ご清聴ありがとうございます。

【2日目】

グループ討議の結果

グループ名	1 1. 子どもと高齢者に対する交通安全活動
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県では知事から反射材をいただき、各市町でお店の前で配布する。それをすぐに靴などに貼ってあげる ・民生委員の協力を得て、出てこない方には直接訪問して、反射材を配布し、すぐに身に付けてもらう ・交通安全推進員が6月~11月までに、全家庭に2人一組で訪問 ・いきいきサロンで交通安全教室を開き、その場でグッズを貼っている
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・親子行事に参加する保護者は安全教育に興味がなく、スマホを触っている ・怖い、ヒヤリとした体験がない家庭が多く、他人事と思っている ・ドライバーから見た歩行者の横断について自分本位の行動が目立つ ・高齢者に対する安全教育の必要性
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日、親だけに集まってもらい、実例を挙げた交通安全教育をする ・地域にあったやり方が必要ではないか ・免許証を自主返納した場合の対応策が良ければ考えてもらえる ・病院まで送迎してくれる地域もある ・高齢者への便宜を図る移動販売や外出に対して、自治体で車を用意した送迎など、電話一本で活動しているところもある

グループ名	1 - 2. 子どもと高齢者に対する交通安全活動
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊員全員で、集団登下校時に1・2年生を対象に挨拶している ・水・金曜日、校門までオレンジベスト、サンバイザーを付けて迎えに行く ・年1回、隊員の代表が花束を受けている（顔見知りの関係が作れる） ・4年生になると自転車に乗る練習とテストをするが、そこに参加し顔見知りになる ・スクールガードの会合で反省・改善点を要望する
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが挨拶できない。学校が「知らない人としゃべらない、ついて行かない」を徹底している ・公共交通が発達している所でないとい買い物・通院もできない ・免許返納の年齢制限は難しい
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・(シニアカー)の利用促進 ・シミュレーション等で、危険を自分自身で自覚してもらう ・高齢者の運転免許更新時の検査を厳しくしてほしい

グループ名	2．自転車利用者に対する交通安全活動
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高生は自転車の交通ルールやマナーを知らない（軽車両であることなど） ・自転車安全利用五則を知らない ・自転車利用者も、覚えておきたい道路標識 ・自転車保険加入が不足 ・夜間の運転の危険、反射材使用の効能などを知らない ・事故時の正しい対応を知らない
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・県警からもっと広報活動や指導をしてもらいたい ・自転車のルールをDVDにして、入学式や新学期に全校生徒に見せる ・事故時の正しい対応を学校等で指導してほしい ・自転車購入時に必ず保険に加入するよう指導（義務化も）する ・自分たちでできることは、街頭指導と保護者への声掛けである

グループ名	3．通学時間帯における交通安全活動、啓発活動
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学路 ・下校時の安全
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンベルトの設置 ・通学路について、広報で地域に知らせる ・自治会で、通学路である看板を設置 ・親や女性会が先頭に立つ ・スクールガード（見守り隊）の登録制を ・スクールバスやコミュニティバスの活用 ・児童に安全力を身に付ける

皆さん慣れていらっしゃるのですね。発表が非常にスムーズでした。だから、発表の中身を拝聴いたしますと、交通安全活動の中身に関して討議されたところもあるし、中身というよりは主に仕組みについての討議というところもありました。また、担い手、例えば、若い人がいないということも踏まえた担い手についての悩み、課題もあったかと思えます。

まず、グループ1の1では、免許証の自主返納とか買い物難民、病院難民の話があったかと思えます。

グループ1の2は「子どもと高齢者」。ここでは見守り隊の話が出ましたけれども、私の若い頃の研究結果だと、挨拶のできない子どもというのは事故に遭いやすい「事故傾向児」という特徴があったのですが、今では時代が変わって、誘拐や連れ去りなどの事件との関連が出てくるので、そう簡単に挨拶もできないのかなということは、大変重要なことなのだなという印象を受けました。

それから、高齢者の免許の返納がしにくいということ。これは当然だと思いますが、これは、後ほどの私の講演の時にお話しさせていただきたいと思えます。

それから、グループ2は自転車ですけれども、非常に印象に残ったのは、トラックから見る自転車は見にくいというお話が出ていました。今朝、5時半のNHKで、自転車にレーダーを取り付けたという話題がありました。要するに、夜間、後ろから車が来ると、自転車の後ろ側にあるレーダーが作動して赤いライトが点滅する。だから、ドライバーには非常に分かり易いということでした。こういった機器も、単なる反射材だけではなくて、時代とともに進歩していますねということが1つ言えることかなと思うのですね。フランスの言葉ですけれども、安全というのは、見ること、見せることなのだというのは、まさにこの点を指しているのではないかなと思えます。それと、自転車安全利用五則。これはおっしゃる通りだなという感じがいたしました。

それから、グループ3です。誰を次の担い手にするのか。いわゆる交通ボランティアも含めてですけれども、高齢化が進んでいるのは他のボランティアと同じです。今、交通の中で大事な点は、若者をどうやって引きつけたら良いのかということです。例えば、ちょっとしたボランティア、ちょボラの活用というのも1つ参考になるのではないかと。皆さん方が朝、登校の子どもたちを見守る時に、そこに高校生なんかちょっと10分だけでもいいから「一緒に立ってみてね」なんて、単なるちょボラという言葉で表現されますけれども、そういったことが必要になるのではないかと思えます。

残念ながら時間が来てしまいましたので、私のまとめを先に終わらせておき、その後、私の講演をさせていただきます。どうもお疲れ様でした（拍手）。

講演

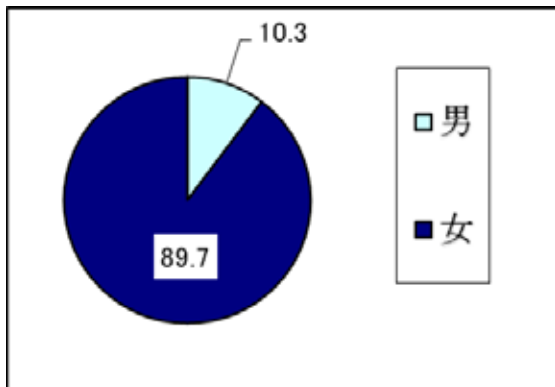
「高齢ドライバーの交通安全」 ～家庭・地域にもとめられるもの～

安全教育研究所 所長 星 忠通

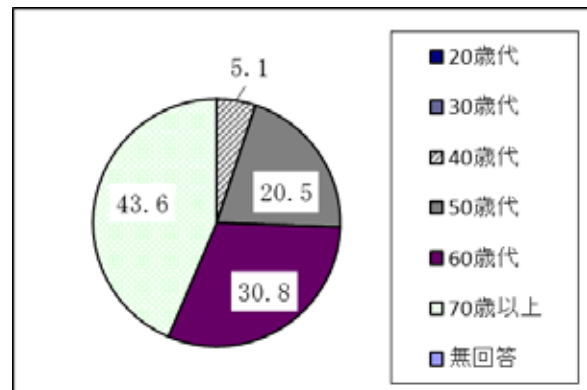
ページの関東・甲信越ブロックでの講演録参照。

3. アンケート集計結果

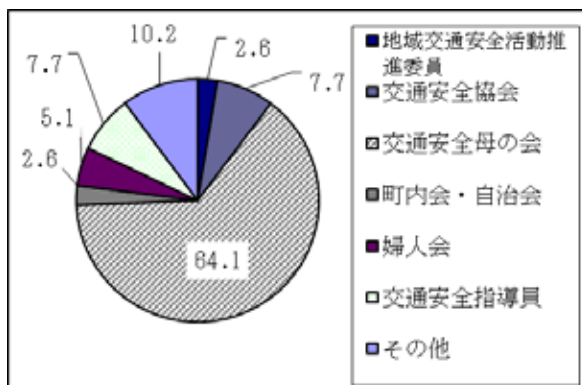
1. 性別



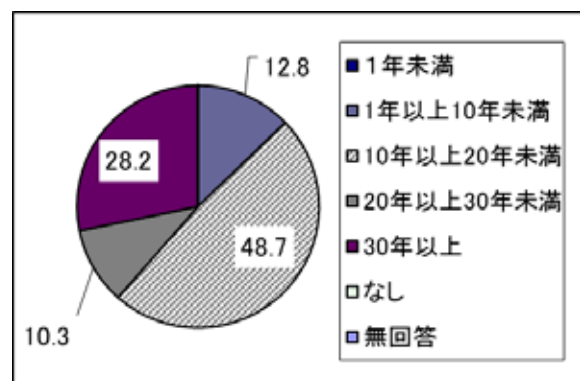
2. 年齢



3. 所属団体

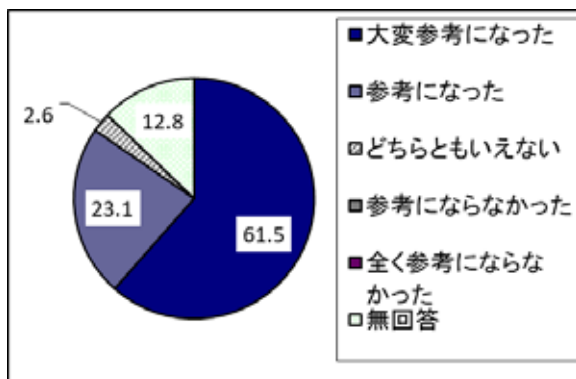


4. 活動年数

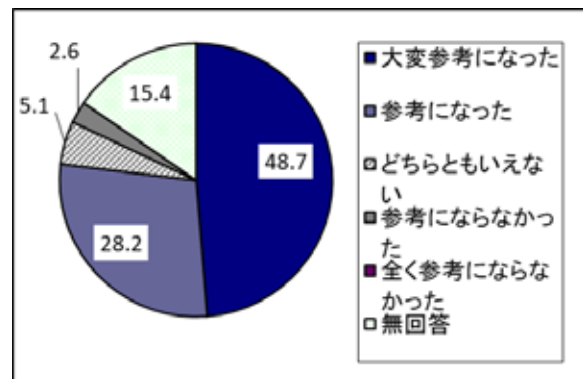


5. 評価

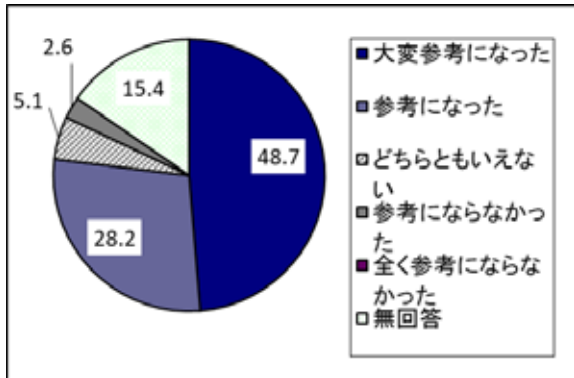
[講演 講師：藤原徳子先生]



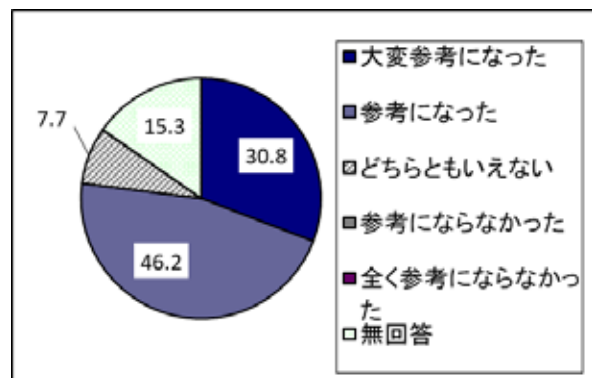
[講演 講師：星忠通先生]



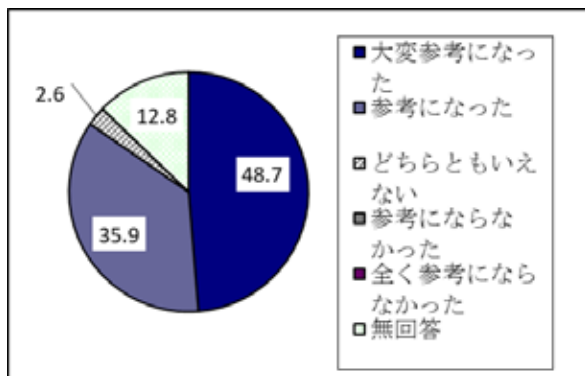
[活動事例発表]



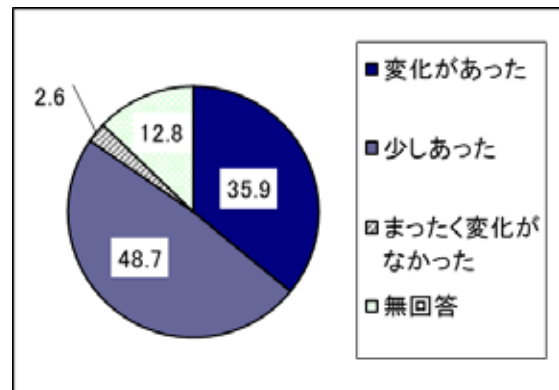
[グループ討議]



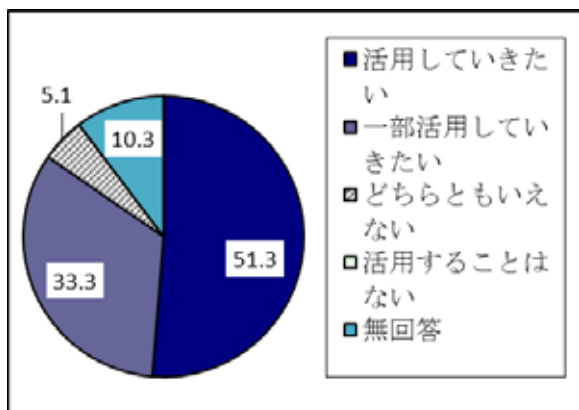
[総合評価] (講習会全体として)



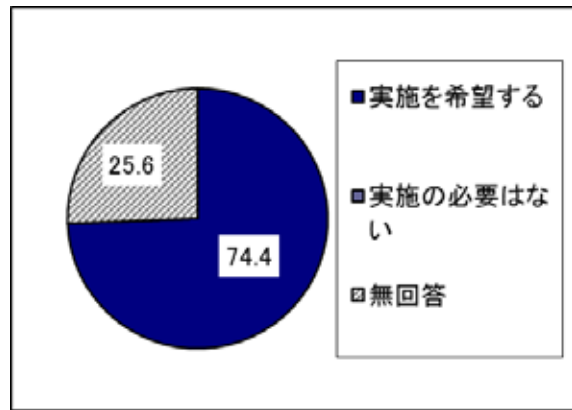
7. 講習会参加による意識の変化



8. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか



11. 来年度の開催について



6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・ 子育て支援センターでの講習の仕方
- ・ 受講者のプロフィール等が分からない時の講習の在り方
- ・ イベント等の流動的な場合の講習の仕方
- ・ 魅力ある役員になるための方法
- ・ 自転車は車道通行になったが、それによる危険はないのか

9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・ 大規模な講習会ではなく、各地区単位での講習会の実施 (2)
- ・ 講習会等で役立つ技術(例: 手品、川柳などの専門家の話)
- ・ 定期的な講習が受けられるとよい
- ・ 新しく改正された法令等
- ・ 高齢者の事故再現(シミュレーターなど)

12. その他の意見・要望

- ・ 各県の実践例があっても良かった (2)

4. 記録写真



開会挨拶（内閣府 大橋参事官補佐）



講演 藤原徳子先生



活動事例発表



グループ別討議



討議発表



講演 星 忠通先生

